

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	島根県立大学
設置者名	公立大学法人 島根県立大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
総合政策学部	総合政策学科	夜・通信	—	—	22	22	13	—
看護栄養学部	看護学科	夜・通信		—	64	64	13	—
	健康栄養学科	夜・通信		—	46	46	13	—
人間文化学部	保育教育学科	夜・通信		—	21	21	13	—
	地域文化学科	夜・通信		—	13	13	13	—
(備考) 看護栄養学部、人間文化学部は2018年度から設置しており、完成年度は2021年度となる。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページに掲載する。 掲載先アドレス： http://www.u-shimane.ac.jp/ja/announce/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	島根県立大学
設置者名	公立大学法人 島根県立大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 学部毎にシラバス作成の手引きを作成し、各項目における表記のポイント及び記載例を具体的に例示している。併せて作成スケジュールも明記し、公開までの進行管理を行っている。次年度のシラバス公開は凡そ前年度末の3月下旬を予定している。作成されたシラバスは広く公開することとし、学外者であってもホームページにおいてPDFの閲覧やシステムによる検索が可能である。</p>	
授業計画書の公表方法	ホームページにて公表 http://www.u-shimane.ac.jp/announce/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業科目毎に作成されたシラバスに明記されている評価方法(出席点〇%、レポート〇%、小テスト〇%、期末テスト〇%、授業態度〇%等、授業科目によって異なる。)により、100点満点で採点を行い、結果を下記のとおり評価する。</p> <p>90～100 秀 80～89 優 70～79 良 60～69 可 0～59 不可</p> <p>このうち、「可」以上の成績を修めたものを合格とし、単位を与える。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 「島根県立大学・島根県立大学短期大学部におけるG P A制度の取り扱いに関する要項」を策定し、要項に基づき学部毎に運用している。GPAは下記の計算式で算出し、学期GPA及び累計GPAを学生に公表し、自身による学修成果の確認が容易になるよう取り組んでいる。</p>	
<p>(1) 学期G P Aの計算式</p> $\frac{\text{当該学期の「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1}{\text{当該学期の総履修登録単位数}}$	
<p>(2) 累積G P Aの計算式</p> $\frac{\text{全期間の「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1}{\text{全期間の総履修登録単位数}}$	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>「履修の手引き」等学生に配布する資料により公表している。</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

全学及び学部学科ごとに下記の通りディプロマ・ポリシーを策定し、方針に基づいた卒業認定を実施している。卒業必須 124 単位を取得し、以下のディプロマポリシーに基づく能力や知識等を身につけている学生について、卒業認定会議を経て卒業者を決定する。

島根県立大学

本学は、地域の先人である西周が標榜した「純理の学」から「実践の学」にわたる諸科学の統合をめざし、各専門領域における研究活動を深め、それにもとづく創造的な教育活動によって、現代社会の諸課題に国際的な視野からアプローチし、また、地域社会の活性化と発展に寄与する人材を養成することを使命とすることを教育理念としています。

従って、次の学士力を身につけ、かつ卒業要件を満たした者に学位を授与します。

- ・現代社会の諸課題に国際的な視野からアプローチし、また、地域社会の活性化と発展に寄与することができる。
- ・幅広い市民的教養と高度の専門知識、豊かな人間性と高い倫理観を有する。
- ・主体的に問題を発見・整理・解決し、現代社会の諸分野において着実に貢献できる。

総合政策学部 総合政策学科

島根県立大学総合政策学部は、ディプロマ・ポリシー(卒業認定の方針)を次のように定め、卒業要件として以下の知識・能力を身につけることを要請しています。

1. 社会科学・人文科学の基本的知識を身につけ、それらを有機的に結びつけて理解すること。
2. 主体的に問題を発見・整理し、適切な解決策を導き、それを説得的に提示する能力を身につけること。
3. 国際化・情報化に対応したコミュニケーション能力を身につけること

看護栄養学部

看護学科

健康栄養学科

看護栄養学部は、看護学もしくは栄養学の基礎的な知識・技術を修得し、科学的かつ倫理的な判断に基づく実践能力を身につけることを要請しています。

看護学科では、所定の期間在学し、所定の単位を修得することで、以下の要件を満たしたと認められる学生に対し、学士(看護学)の学位を授与する。

- 1 基礎的な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ倫理的判断に基づく看護実践ができる能力を備えている
- 2 人の生き方や価値観を尊重し、援助関係が形成できる能力、また多職種と協働・連携する能力を備えている
- 3 地域特性を理解して多職種と協働・連携し、人々の健康上の課題解決を図る基礎的能力を備えている

健康栄養学科では、所定の期間在学し、所定の単位を修得することで、以下の要件を満たしたと認められる学生に対し、学士(栄養学)の学位を授与する。

- 1 管理栄養士に必要とされる高度な専門知識を身につけている
- 2 世界及び地域における多様な風土や食文化と健康との関わりについて理解できる
- 3 健常者及び傷病者に対し、科学的根拠に基づく適切な栄養管理・栄養療法を行うことができる
- 4 保健・医療・福祉・教育等の分野における関連職種との効率的な連携や適切なコミュニケーションをとることができる

<p>4 研究的な姿勢を持ち、人々の健康の維持・増進に寄与する能力を備えている</p>	<p>5 専門的な情報を効率よく収集し、科学的な根拠に基づいて分析し、その結果を適切に表現することができる</p> <p>6 対象者の特性やライフステージに合致した適切な栄養教育ができる</p> <p>7 管理栄養士としての職業倫理に基づいた責任ある行動をとることができる</p>
<p>人間文化学部</p>	
<p>保育教育学科</p>	<p>地域文化学科</p>
<p>[知識・技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間と文化について広い視野を備え、多様性を理解することができる。 <p>[思考力・判断力・表現力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における人間の生き方や文化の様態について、自ら価値を見出すことができる。 <p>[関心・意欲・態度]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々と協働して地域社会に貢献しようとする態度を身に付けている。 	
<p>[知識・技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育・教育及び関連する諸分野に関する専門的な知識及び技能を身に付けている。 ・乳幼児期から児童期までの子どもの発達に関する課題を論理的に理解できる。 <p>[思考力・判断力・表現力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育・教育に関する諸課題について多様な角度から考察し、自ら主体的に課題解決に向けた思考判断ができる。 ・学修した専門的知識と技能を、言葉、文章、図表、身体表現等の多様な方法により的確に表現することができる。 <p>[関心・意欲・態度]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団活動において、協同的に活動して成果を上げる姿勢とコミュニケーション力を有する。 ・地域社会において、保育者、教育者としての役割を果たすことができる人権感覚、倫理観、職業観を身に付けている。 	<p>[知識・技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や時代の異なる様々な文化に関する専門的な知識を身に付けている。 ・国際化に対応した語学力を身に付けている。 ・地域において実践活動を行う方法・技能を身に付けている。 <p>[思考力・判断力・表現力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の生き方や文化について主体的に考えを深め、課題を見出すことができる。 ・情報を取捨選択しながら論理的に課題に取り組むことができる。 ・言語を通して正確に意思の疎通を図ることができる。 <p>[関心・意欲・態度]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる文化、異なる地域で暮らす人々に対する寛容の精神と態度を身に付けている。 ・地域の暮らしと文化に誇りを持ち、地域の文化を支えていく意欲がある。 ・地域社会において人々と協調・協働しながら課題に取り組む態度を身に付けている。
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>ホームページにて公表。 http://www.u-shimane.ac.jp/university/policy/</p>

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：ホームページにて公表。<http://www.u-shimane.ac.jp/foundation/31check/>

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：ホームページにて公表。<http://www.u-shimane.ac.jp/foundation/31check/>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 総合政策学部
教育研究上の目的（公表方法：「島根県立大学学則」に記載。） （概要） 豊かな教養と高度な専門的知識を備え持ち主体的に問題の発見及び解決をなし得る人材を育成し、さらに、世界的視野に立った地域研究活動と教育研究成果の幅広い社会還元を通して、学術文化の進展と地域社会の発展に寄与することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにて公表。 http://hamada.u-shimane.ac.jp/department/sogoseisaku/02aim/ ） （概要） 島根県立大学総合政策学部はディプロマ・ポリシーを次のように定め、卒業要件として以下の知識・能力を身につけることを要請しています。 <ol style="list-style-type: none">1. 社会科学・人文科学の基本的知識を身につけ、それらを有機的に結びつけて理解すること。2. 主体的に問題を発見・整理し、適切な解決策を導き、それを説得的に提示する能力を身につけること。3. 国際化・情報化に対応したコミュニケーション能力を身につけること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにて公表。 http://hamada.u-shimane.ac.jp/department/sogoseisaku/02aim/ ） （概要） 社会科学と人文科学分野の学問を幅広くかつ体系的に学ぶことができるよう、地理、歴史、文化、人間科学の講義科目を総合教養科目として、また社会、政治、国際関係、政策、法律、経済、経営、環境の基礎的な講義科目を基盤科目、より専門的な講義科目を専門科目として配置しています。 入学から卒業まで、主体的に学ぶための少人数セミナーを必修としています。初年次のフレッシュマン・スキル・セミナー、フレッシュマン・フィールド・セミナーは、高校までの学びと大学の学びを接続するためのセミナーです。2年次以降は、総合演習科目に所属して専門教育を受けることになります。 専門教育では、「国際関係プログラム」「北東アジアプログラム」「社会経済プログラム」「地域政策プログラム」の4つのプログラムを置き、プログラムに応じた科目選択をおこなうことによって、専門的知識を体系的に学べるように設計されています。 外国語科目としては英語を第一外国語として、北東アジアの地域言語を第二外国語として配置しています。また情報収集・分析・発信のためのコミュニケーション・ツールとしての情報科目を配置しています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにて公表。 http://hamada.u-shimane.ac.jp/department/sogoseisaku/02aim/ ）

(概要)

島根県立大学総合政策学部は、次のような4つの教育理念を掲げて教育を行なっています。

1. 主体的に問題を発見・整理し、適切な解決策を提示できる人材の育成
2. 豊かな教養を持ち、1つの問題に対し多角的にアプローチできる人材の育成
3. 国際的な視野から思考し、直面する問題に対して実践的に対応できる人材の育成
4. 国際化・情報化に対応したコミュニケーション能力を備えた人材の育成

このような教育理念のもと、本学部では、2年次からの少人数の演習科目である『総合演習』を学修の核として位置付けています。この『総合演習』は、「国際関係」「北東アジア」「社会経済」「地域政策」という4つのプログラムの中から1つを選択して履修する科目であり、将来の進路を見据えて系統立てた学修を進めるとともに、本学部での「学びの集大成」として充実した卒業研究を行うことを目標とするものです。

上記の教育理念と教育の特色を踏まえて、本学部では次のような学生を求めています。

- ・島根県立大学総合政策学部の教育理念と教育内容を十分に理解し、本学部において期待される人材となるべく、必要とされる基礎学力とともに、自らを成長させようとする高い勉学意欲と適性を有している人
- ・社会の動きに対して積極的な関心を持ち、そこに見られる諸問題を広い視野の中での確に把握し、多角的なアプローチによってその解決策を考えてみたい人
- ・社会科学・人文科学を中心とした幅広い分野の学問を学ぶとともに、「国際関係」「北東アジア」「社会経済」「地域政策」のいずれかについてさらに深く学んでみたい人
- ・知識の習得にとどまらず、「豊かな人間性」を育み、実践的な問題発見・解決能力とコミュニケーション能力を鍛え、社会人として求められる資質をバランスよく向上させたい人
- ・本学部での学びを自らの生き方と関わらせ、積極的に今後のキャリア形成に活かしていこうとする人

入学後に本学部の教育理念に基づく学修に取り組むにあたって、日頃から世界全体の出来事や地域社会、時事に関心を持っていることが重要です。現状の問題点や課題を自ら発見し、その解決策を提示し実践するための創造的な思考力や、総合政策学部の学びに対し積極的な姿勢で臨む主体性を、高校生活等を通して養っておくことが必要です。また、本学部は社会科学・人文科学を中心としたカリキュラム編成を行っていますので、国語・英語の2教科を中心に地理歴史・公民・数学などを幅広く十分に学習し、基本的な知識や読解力・表現力を身につけておくことも大切です。

学部名等：看護栄養学部

教育研究上の目的（公表方法：「学習の手引き」P7に記載。）

(概要)

市民的な教養を教授するとともに、看護学・栄養学における高度な知識と技術を教授・研究し、深い人間愛と倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本と実践能力を身につけた専門職を育成する。また、看護学・栄養学の教育研究活動を通して地域社会における健康課題を明らかにし、その改善のための研究を行い、研究成果を保健・医療・福祉分野はもとより広く社会に還元することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにて公表。

<http://www.u-shimane.ac.jp/university/policy/>)

(概要)

看護学科	健康栄養学科
<p>看護栄養学部は、看護学もしくは栄養学の基礎的な知識・技術を修得し、科学的かつ倫理的な判断に基づく実践能力を身につけることを要請しています。</p>	
<p>看護学科では、所定の期間在学し、所定の単位を修得することで、以下の要件を満たしたと認められる学生に対し、学士(看護学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">1 基礎的な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ倫理的判断に基づく看護実践ができる能力を備えている2 人の生き方や価値観を尊重し、援助関係が形成できる能力、また多職種と協働・連携する能力を備えている3 地域特性を理解して多職種と協働・連携し、人々の健康上の課題解決を図る基礎的能力を備えている4 研究的な姿勢を持ち、人々の健康の維持・増進に寄与する能力を備えている	<p>健康栄養学科では、所定の期間在学し、所定の単位を修得することで、以下の要件を満たしたと認められる学生に対し、学士(栄養学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none">1 管理栄養士に必要とされる高度な専門知識を身につけている2 世界及び地域における多様な風土や食文化と健康との関わりについて理解できる3 健常者及び傷病者に対し、科学的根拠に基づく適切な栄養管理・栄養療法を行うことができる4 保健・医療・福祉・教育等の分野における関連職種との効率的な連携や適切なコミュニケーションをとることができる5 専門的な情報を効率よく収集し、科学的な根拠に基づいて分析し、その結果を適切に表現することができる6 対象者の特性やライフステージに合致した適切な栄養教育ができる7 管理栄養士としての職業倫理に基づいた責任ある行動をとることができる

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方針：ホームページにて公表。

<http://www.u-shimane.ac.jp/university/policy/>)

(概要)

看護学科	健康栄養学科
<p>市民的教養を涵養するとともに、看護学もしくは栄養学の基礎的な知識・技術を修得し、科学的かつ倫理的な判断に基づく実践能力を有した専門職業人を育成するために、教育課程には以下5点の特色を持たせています。</p>	
<ol style="list-style-type: none">1 市民的教養と多様な価値観を認める豊かな人間性を涵養するとともに、看護学や栄養学の基盤となる人間を深く理解するために「共通教養」分野を設けています。2 看護学科・健康栄養学科ともに、少子高齢化や医療資源の偏在など地域が抱えている課題を踏まえつつ、人々の健康や生活を守り、かつ創造的に関わることができる実践能力の修得をめざしています。そのため「連携」分野を設け、地域特性の理解を図る講義やフィールドワークを行う必修科目およびそれぞれの専門性を理解し多職種間で連携・協働できる能力の修得を図る選択科目を配置しています。3 専門職としてのキャリア形成を展望し目標を明確化するとともに、自らの目標に向かって学びを蓄積できるよう4年間継続的にサポートする「キャリアセミナーⅠ～Ⅳ」を設けています。4 看護学・栄養学それぞれの基礎的な知識・技術を修得し実践能力を高めるために、基礎的な科目から応用発展的な科目を系統的に配置しています。5 主体的な学修を促進し、かつ実践能力の修得を図るために、フィールドワーク・演習・実験・実習など体験型の学修機会を段階的に設けています。	

<ul style="list-style-type: none"> 1 看護を実践する能力の育成 2 相手を理解し協働する能力の育成 3 地域の特性と健康課題を探究する能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 1 市民としての教養の修得及び実践力の育成 2 管理栄養士に必要とされる専門性及び実践力の育成 3 関連職種連携に必要とされる能力及び職業倫理に基づく実践力の育成 4 地域の栄養改善のための実践力の育成
---	--

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにて公表。

<http://www.u-shimane.ac.jp/university/policy/>)

(概要)

看護学科	健康栄養学科
<ul style="list-style-type: none"> 1 豊かな人間性を備え、看護学もしくは栄養学に関心がある人 2 人々の健康に関する分野で、何事にも前向きに挑戦する意欲がある人 3 保健・医療・福祉・教育等の分野を学ぶ上で、必要な学習能力を備えている人 	<ul style="list-style-type: none"> 1 自然科学に基づく思考力・分析力や食と健康に関わる学問への興味・熱意をもつ人 2 管理栄養士としての専門知識に基づき、保健・医療・福祉・教育等の分野において社会に貢献しようとする意欲をもつ人 3 地域への関心と人への思いやりをもち、地域社会において関連職種や関係機関と連携して活動するための協調性を備えている人
<ul style="list-style-type: none"> 1 人間が大好きで、生命の尊厳を重視し、看護に高い関心がある人 2 強い責任感と倫理観に支えられた豊かな人間性を備えている人 3 コミュニケーション能力や看護学を学ぶ上で必要な学習能力をもつ人 4 主体的に課題を解決する意欲と行動力を備えている人 	<ul style="list-style-type: none"> 1 自然科学に基づく思考力・分析力や食と健康に関わる学問への興味・熱意をもつ人 2 管理栄養士としての専門知識に基づき、保健・医療・福祉・教育等の分野において社会に貢献しようとする意欲をもつ人 3 地域への関心と人への思いやりをもち、地域社会において関連職種や関係機関と連携して活動するための協調性を備えている人

学部名等：人間文化学部

教育研究上の目的（公表方法：「シラバス」に記載。）

(概要)

保育教育学科	地域文化学科
<p>人間文化学部は、人間形成及び人間によって歴史的に創出・形成されてきた文化について探求し、地域社会と連携した実践的で学術的な教育研究を推進します。</p> <p>地域における文化の発見と継承、再生に取り組み、地域で活躍できる実践力を兼ね備えた人材を育成することを通して、関連する学術分野の進展と地域社会の発展に寄与することを目的とします。</p>	
<p>保育教育学科では、人間形成(特に乳幼児期・児童期)の在り方を中心とした教育研究を推進し、地域文化や児童文化を次世代に向けて継承し得る豊かな人間性を備えた保育者・教育者を育成する。乳幼児期から児童期までの子どもの成長・発達を見通して考えることのできる広い視野と高度な専門性を持ち、地域の様々な環境に置かれた子どもや障害のある子どもに対応し得る高い実践力を備えた人材を育成する。</p>	<p>地域文化学科は、島根の文化をはじめ、日本及び海外の諸文化について、歴史や語学、文学などの様々な観点から教育研究を推進します。</p> <p>地域の文化を基盤としてグローバルな視点で文化の諸相を捉えることのできる広い視野と寛容の精神を備え、人々と協働しながら文化の活性化に取り組む態度を身に付けた人材を育成することを通して、地域文化の継承と発展に寄与することを教育研究上の目的とします。</p>

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにて公表。

<http://matsuec.u-shimane.ac.jp/department/ningenbunka/3policy/>)

(概要)

保育教育学科	地域文化学科
<p>[知識・技能] ・人間と文化について広い視野を備え、多様性を理解することができる。</p> <p>[思考力・判断力・表現力] ・地域における人間の生き方や文化の様態について、自ら価値を見出すことができる。</p> <p>[関心・意欲・態度] ・人々と協働して地域社会に貢献しようとする態度を身に付けている。</p>	
<p>[知識・技能] ・保育・教育及び関連する諸分野に関する専門的な知識及び技能を身に付けている。 ・乳幼児期から児童期までの子どもの発達に関する課題を論理的に理解できる。</p> <p>[思考力・判断力・表現力] ・保育・教育に関する諸課題について多様な角度から考察し、自ら主体的に課題解決に向けた思考判断ができる。 ・学修した専門的知識と技能を、言葉、文章、図表、身体表現等の多様な方法によりの確に表現することができる。</p> <p>[関心・意欲・態度] ・集団活動において、協同的に活動して成果を上げる姿勢とコミュニケーション力を有する。 ・地域社会において、保育者、教育者としての役割を果たすことができる人権感覚、倫理観、職業観を身に付けている。</p>	<p>[知識・技能] ・地域や時代の異なる様々な文化に関する専門的な知識を身に付けている。 ・国際化に対応した語学力を身に付けている。 ・地域において実践活動を行う方法・技能を身に付けている。</p> <p>[思考力・判断力・表現力] ・人間の生き方や文化について主体的に考えを深め、課題を見出すことができる。 ・情報を取捨選択しながら論理的に課題に取り組むことができる。 ・言語を通して正確に意思の疎通を図ることができる。</p> <p>[関心・意欲・態度] ・異なる文化、異なる地域で暮らす人々に対する寛容の精神と態度を身に付けている。 ・地域の暮らしと文化に誇りを持ち、地域の文化を支えていく意欲がある。 ・地域社会において人々と協調・協働しながら課題に取り組む態度を身に付けている。</p>

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにて公表。

<http://matsuec.u-shimane.ac.jp/department/ningenbunka/3policy/>)

(概要)

保育教育学科	地域文化学科
<p>人間文化学部では、4年間の体系的な教育課程を編成するため、科目の大きな区分として[学部共通基礎科目][学科基礎科目][専門基幹科目][専門発展科目(保育教育学科)／専門科目(地域文化学科)]の4つの科目区分を設け、以下のとおりカリキュラムポリシーを定める。</p> <p>・[学部共通基礎科目]には、[教養科目][しまねの文化][体育][外国語]の科目群を設ける。[教養科目]では、人間と文化、社会、自然のそれぞれの関わりについて基礎的な知識を身に付ける。[しまねの文化]では、地域における人々の暮らしや文化に対する理解を深め、地域共生の精神を育む。[体育]では健康に対する理解を深め、体力増進を図る。[外国語]では、英語に次ぐ第2外国語としてアジア地域の言語を修得する。</p> <p>・[学科基礎科目]には、保育教育学科、地域文化学科の両学科に、[ライフデザイン][言語リテラシー][情報リテラシー]の科目群を設ける。[ライフデザイン]では、初年次教育並びにキャリア教育を行う。[言語リテラシー]では、英語の基礎的な運用能力を身に付ける。[情報リテラシー]では、コンピュータの知識と技術、並びに情報倫理について修得する。</p>	

・ [専門基幹科目][専門発展科目(保育教育学科)／専門科目(地域文化学科)]には、保育教育学科、地域文化学科の両学科の教育課程に応じた科目群をそれぞれ設け、人間と文化に関する広い視野と高い専門性を育成する。

1 科目区分[学科基礎科目]を設け、初年次教育及びキャリア形成を行う[ライフデザイン]科目群、保育教育職の基礎的リテラシーを養成する[言語リテラシー]科目群及び[情報リテラシー]科目群を配置する。

2 地域の課題を自ら探究する能力の育成を行うために、科目区分[基幹研究プロジェクト]を設け、アクティブラーニングによる地域活動科目や、課題意識に基づく自主的研究活動推進のための科目を配置する。

3 地域の人間と文化の魅力を、次世代を担う子どもたちに継承することができる表現力を育成するために、[基幹研究プロジェクト]の必修科目として「表現研究(児童文化)Ⅰ・Ⅱ」「言葉研究(読み聞かせ実践)」のアクティブラーニング科目を設け、[専門基幹科目]の指導法・演習等の基盤とする。

4 子どもの発達や学習過程についての高い専門性と考察力の育成を段階的に着実に行うために、専門科目を[専門基幹科目]と[専門発展科目]の2段階で編成し、さらに[専門基幹科目]の中に、科目区分[教職の意義]や[教育の基礎理論][福祉と養護の基礎理論]等の基礎理論の科目群を必修科目として配置する。

5 集団での協同的実践力の育成を行うことを目的として、4年間の教育課程を通し、実習体験活動やグループ演習を重視した指導を推進する。

1 科目区分[学科基礎科目]を設け、初年次教育及びキャリア形成を行う[ライフデザイン]科目群、基礎的英語力を養成する[言語リテラシー]科目群、情報処理能力を養成する[情報リテラシー]科目群を配置する。

2 地域の文化に関する理解を深めるため、[専門基幹科目]に1年次より履修する[入門][文化の発見][文化の体験][文化の活用]の科目群を置く。[入門]では、「地域文化入門」を必修として配置し、[文化の発見]では、地域文化の魅力について理解する科目を配置する。[文化の体験]では、島根の各地域をフィールドとして体験的に学修する科目を配置する。[文化の活用]では、観光まちづくりを通して文化を地域の活性化に結びつける方法を修得する科目を配置する。

3 本学科は、日本及び海外諸地域の文化について探究し、文化を多面的に捉えることができる広い視野を身に付けること、異なる地域や異なる時代の様々な人間の生き方や文化を尊重する寛容と共生の精神を養うことを目指している。そのために、2年次以降「日本文化コース」及び「国際文化コース」の[専門科目]として、日本や海外諸地域の文化や文学、歴史について幅広く学修する科目を配置する。

4 豊かな確かな表現力と円滑なコミュニケーション力を育成するため、1年次の「スタートアップセミナーⅠ・Ⅱ」から4年次の卒業研究「地域文化プロジェクトⅡ」に至るまで、少人数ゼミでの口頭発表やレポート作成を行う。外国語については、[学科基礎科目]の[言語リテラシー]や「国際文化コース」の[専門科目]において英語を幅広く学び、実践的な英語力を身に付けながら、TOEIC や観光英語検定などの資格支援も同時に行う。[学部共通基礎科目]には、グローバル社会において重要な第2外国語を配置し、4言語からの選択必修としている。

5 以上の教育課程を統合し、3年次の「地域文化プロジェクトⅠ」、4年次の「地域文化プロジェクトⅡ」において、「日本文化コース」、「国際文化コース」の学びの集大成を図る。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにて公表。 http://matsuec.u-shimane.ac.jp/department/ningenbunka/3policy/）</p>	
<p>（概要）</p>	
<p>保育教育学科</p>	<p>地域文化学科</p>
<p>[知識・技能] ・ 高等学校における基本的な教科を幅広く理解し、大学で学んでいく上で必要な基礎的な学力を身に付けている人</p> <p>[思考力・判断力・表現力] ・ 広く多様な角度から物事を捉える視野と、自ら主体的に考える姿勢を有し、自らの考えを的確に言葉や文章によって伝えることができる人</p> <p>[関心・意欲・態度] ・ 大学での学びを地域に還元し、他者と協調しながらこれからの地域社会を担っていこうとする強い意欲のある人</p>	
<p>[知識・技能] ・ 保育者・教育者としての専門的知識や技能を身に付けていくために必要な基礎的な学力を有している人</p> <p>[思考力・判断力・表現力] ・ 多様な角度から課題を捉え、自分の視点で考察した上で、自分の考えを的確に言葉や文章によって伝えることができる人</p> <p>[関心・意欲・態度] ・ 保育者・教育者として、大学で学んだ専門的知識や技能を地域に還元し、他者と協調しながら社会に貢献していこうとする強い意欲を有している人</p>	<p>[知識・技能] ・ 文化に関する様々な分野からの専門的な学びを深めていくために必要な基礎的な学力を有している人</p> <p>[思考力・判断力・表現力] ・ 広い視野から事象を見て、自ら見出した課題を主体的に考え、自分の考えを的確に言葉や文章によって伝えることができる人</p> <p>[関心・意欲・態度] ・ 地域の文化から日本、海外諸地域の文化まで多様な視点から文化について学び、学んだことを地域において還元し、社会に貢献していこうとする強い意欲を有している人</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページにて公表。URL：<http://www.u-shimane.ac.jp/announce/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
総合政策学部	—	26人	19人	1人	1人	1人	48人
看護栄養学部	—	19人	19人	6人	17人	1人	62人
人間文化学部	—	11人	17人	3人	1人	0人	32人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
0人				175人			175人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：ホームページにて公表。 http://www.u-shimane.ac.jp/announce/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
総合政策学部	220人	238人	108.2%	900人	981人	109.0%	10人	0人
看護栄養学部	120人	127人	105.8%	498人	459人	92.2%	9人	1人
人間文化学部	110人	117人	106.3%	454人	354人	78.0%	7人	1人
合計	450人	482人	107.1%	1,852人	1,794人	96.9%	26人	2人
(備考) 看護栄養学部及び人間文化学部は2018年度から設置されており、完成年度は2021年度予定。								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
総合政策学部	222人 (100%)	2人 (0.9%)	207人 (93.2%)	13人 (5.9%)
看護栄養学部	78人 (100%)	8人 (10.2%)	69人 (88.5%)	1人 (1.3%)
人間文化学部	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
合計	300人 (100%)	10人 (3.3%)	276人 (92.0%)	14人 (4.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考) 人間文化学部は2018年度より新規設置されており、卒業生が出るのは2021年度からとなる。				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>学部毎にシラバス作成の手引きを作成し、各項目における表記のポイント及び記載例を具体的に例示している。併せて作成スケジュールも明記し、公開までの進行管理を行っている。次年度のシラバス公開は凡そ前年度末の3月下旬を予定している。作成されたシラバスは広く公開することとし、学外者であってもホームページにおいてPDFの閲覧やシステムによる検索が可能である。（再掲）</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p><学修の成果に係る評価について></p> <p>授業科目毎に作成されたシラバスに明記されている評価方法（出席点〇%、レポート〇%、小テスト〇%、期末テスト〇%、授業態度〇%等、授業科目によって異なる。）により、100点満点で採点を行い、結果を下記のとおり評価する。</p> <p>90～100 秀 80～89 優 70～79 良 60～69 可 0～59 不可</p> <p>このうち、「可」以上の成績を修めたものを合格とし、単位を与える。</p> <p><卒業又は修了の認定に当たっての基準について></p>
<p>島根県立大学</p>
<p>本学は、地域の先人である西周が標榜した「純理の学」から「実践の学」にわたる諸科学の統合をめざし、各専門領域における研究活動を深め、それにもとづく創造的な教育活動によって、現代社会の諸課題に国際的な視野からアプローチし、また、地域社会の活性化と発展に寄与する人材を養成することを使命とすることを教育理念としています。</p> <p>従って、次の学士力を身につけ、かつ卒業要件を満たした者に学位を授与します。</p> <p>・現代社会の諸課題に国際的な視野からアプローチし、また、地域社会の活性化と発展に寄与することがで</p>

きる。

- ・幅広い市民的教養と高度の専門知識、豊かな人間性と高い倫理観を有する。
- ・主体的に問題を発見・整理・解決し、現代社会の諸分野において着実に貢献できる。

総合政策学部 総合政策学科

島根県立大学総合政策学部は、ディプロマ・ポリシー(卒業認定の方針)を次のように定め、卒業要件として以下の知識・能力を身につけることを要請しています。

1. 社会科学・人文科学の基本的知識を身につけ、それらを有機的に結びつけて理解すること。
2. 主体的に問題を発見・整理し、適切な解決策を導き、それを説得的に提示する能力を身につけること。
3. 国際化・情報化に対応したコミュニケーション能力を身につけること

看護栄養学部

看護学科

健康栄養学科

看護栄養学部は、看護学もしくは栄養学の基礎的な知識・技術を修得し、科学的かつ倫理的な判断に基づく実践能力を身につけることを要請しています。

看護学科では、所定の期間在学し、所定の単位を修得することで、以下の要件を満たしたと認められる学生に対し、学士(看護学)の学位を授与する。

- 1 基礎的な専門知識と技術を身につけ、科学的かつ倫理的判断に基づく看護実践ができる能力を備えている
- 2 人の生き方や価値観を尊重し、援助関係が形成できる能力、また多職種と協働・連携する能力を備えている
- 3 地域特性を理解して多職種と協働・連携し、人々の健康上の課題解決を図る基礎的能力を備えている
- 4 研究的な姿勢を持ち、人々の健康の維持・増進に寄与する能力を備えている

健康栄養学科では、所定の期間在学し、所定の単位を修得することで、以下の要件を満たしたと認められる学生に対し、学士(栄養学)の学位を授与する。

- 1 管理栄養士に必要とされる高度な専門知識を身につけている
- 2 世界及び地域における多様な風土や食文化と健康との関わりについて理解できる
- 3 健常者及び傷病者に対し、科学的根拠に基づく適切な栄養管理・栄養療法を行うことができる
- 4 保健・医療・福祉・教育等の分野における関連職種との効率的な連携や適切なコミュニケーションをとることができる
- 5 専門的な情報を効率よく収集し、科学的な根拠に基づいて分析し、その結果を適切に表現することができる
- 6 対象者の特性やライフステージに合致した適切な栄養教育ができる
- 7 管理栄養士としての職業倫理に基づいた責任ある行動をとることができる

人間文化学部

保育教育学科

地域文化学科

<p>[知識・技能] ・人間と文化について広い視野を備え、多様性を理解することができる。</p> <p>[思考力・判断力・表現力] ・地域における人間の生き方や文化の様態について、自ら価値を見出すことができる。</p> <p>[関心・意欲・態度] ・人々と協働して地域社会に貢献しようとする態度を身に付けている。</p>				
<p>[知識・技能] ・保育・教育及び関連する諸分野に関する専門的な知識及び技能を身に付けている。 ・乳幼児期から児童期までの子どもの発達に関する課題を論理的に理解できる。</p> <p>[思考力・判断力・表現力] ・保育・教育に関する諸課題について多様な角度から考察し、自ら主体的に課題解決に向けた思考判断ができる。 ・学修した専門的知識と技能を、言葉、文章、図表、身体表現等の多様な方法により的確に表現することができる。</p> <p>[関心・意欲・態度] ・集団活動において、協同的に活動して成果を上げる姿勢とコミュニケーション力を有する。 ・地域社会において、保育者、教育者としての役割を果たすことができる人権感覚、倫理観、職業観を身に付けている。</p>		<p>[知識・技能] ・地域や時代の異なる様々な文化に関する専門的な知識を身に付けている。 ・国際化に対応した語学力を身に付けている。 ・地域において実践活動を行う方法・技能を身に付けている。</p> <p>[思考力・判断力・表現力] ・人間の生き方や文化について主体的に考えを深め、課題を見出すことができる。 ・情報を取捨選択しながら論理的に課題に取り組むことができる。 ・言語を通して正確に意思の疎通を図ることができる。</p> <p>[関心・意欲・態度] ・異なる文化、異なる地域で暮らす人々に対する寛容の精神と態度を身に付けている。 ・地域の暮らしと文化に誇りを持ち、地域の文化を支えていく意欲がある。 ・地域社会において人々と協調・協働しながら課題に取り組む態度を身に付けている。</p>		
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
総合政策学部	総合政策学科	124 単位	①・無	年間 40 単位
看護栄養学部	看護学科	124 単位	①・無	年間 45 単位
	健康栄養学科	124 単位	①・無	年間 45 単位
人間文化学部	保育教育学科	124 単位	①・無	年間 46 単位
	地域文化学科	124 単位	①・無	年間 46 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページにて公表。

浜田キャンパス：<http://hamada.u-shimane.ac.jp/campus/map/>

出雲キャンパス：<http://izumo.u-shimane.ac.jp/campus/map/>

松江キャンパス：<http://matsuec.u-shimane.ac.jp/campus/map/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載 事項)
総合政策学部	総合政策学科	535,800円	県内生 188,000円 県外生 282,000円		
看護栄養学部	看護学科	535,800円	県内生 188,000円 県外生 282,000円		
	健康栄養学科	535,800円	県内生 188,000円 県外生 282,000円		
人間文化学部	保育教育学科	535,800円	県内生 188,000円 県外生 282,000円	32,500円	実習等経費
	地域文化学科	535,800円	県内生 188,000円 県外生 282,000円	26,000円	実習等経費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学業や学校生活全般に関する質問や相談、あるいは個人的な指導等を受けるための時間(オフィスアワー)を全専任教員が設定している。各キャンパスではオフィスアワーの他に、教員に対し気軽に何でも相談できる相談会を実施したり、履修登録相談を行ったりしている。また、TA・SA制度等を設け、教員の教育研究業務の補助を行うことで手当の支給を受けるだけでなく、自分自身の能力向上を図ることができる機会を用意している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 各キャンパスでキャリア支援を担当する部署を設置し、学生がいつでも相談できる環境を整えている。また、ゼミ教員と保護者、また学生本人も含めた二者ないし三者面談を実施し、1年次から進路を見据えた教育・学修が行われるよう取り組んでいる。各種資格試験への助成制度もあり、社会で必要とされるスキルの修得を支援している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 毎年1回の健康診断に加え、各キャンパスでは医務室を設置し、常駐の看護師や保健師が健康面での悩みや相談を受け付けている。また、精神科医の校医による精神保健相談や臨床心理士の資格を持つ本学教員、認定心理カウンセラーが常駐する学生サポート室等、相談内容によって適切な職員が窓口となって対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページにて公表。 http://www.u-shimane.ac.jp/announce/
--

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	島根県立大学短期大学部
設置者名	公立大学法人 島根県立大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
短期大学部	保育学科	夜・通信	—	—	15	15	7	—
	総合文化学科	夜・通信	—	—	8	8	7	—
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページに掲載する。 掲載先アドレス： http://www.u-shimane.ac.jp/announce/tanki/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	島根県立大学短期大学部
設置者名	公立大学法人 島根県立大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバス作成の手引きを作成し、各項目における表記のポイント及び記載例を具体的に例示している。併せて作成スケジュールも明記し、公開までの進行管理を行っている。次年度のシラバス公開は凡そ前年度末の3月下旬を予定している。作成されたシラバスは広く公開することとし、学外者であってもホームページにおいてPDFの閲覧やシステムによる検索が可能である。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>ホームページにて公表 http://www.u-shimane.ac.jp/announce/tanki/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業科目毎に作成されたシラバスに明記されている評価方法(出席点〇%、レポート〇%、小テスト〇%、期末テスト〇%、授業態度〇%等、授業科目によって異なる。)により、100点満点で採点を行い、結果を下記のとおり評価する。 90～100 秀 80～89 優 70～79 良 60～69 可 0～59 不可 このうち、「可」以上の成績を修めたものを合格とし、単位を与える。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 「島根県立大学・島根県立大学短期大学部におけるG P A制度の取り扱いに関する要項」を策定し、要項に基づき学部毎に運用している。GPAは下記の計算式で算出し、学期GPA及び累計GPAを学生に公表し、自身による学修成果の確認が容易になるよう取り組んでいる。</p>	
<p>(1) 学期G P Aの計算式 $\frac{\text{当該学期の「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1}{\text{当該学期の総履修登録単位数}}$ </p>	
<p>(2) 累積G P Aの計算式 $\frac{\text{全期間の「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1}{\text{全期間の総履修登録単位数}}$ </p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>「履修の手引き」等学生に配布する資料により公表している。</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

下記の通りディプロマ・ポリシーを策定し、方針に基づいた卒業認定を実施している。卒業必須 64 単位を取得し、以下のディプロマポリシーに基づく能力や知識等を身につけている学生について、卒業認定会議を経て卒業者を決定する。

島根県立大学短期大学部

[知識・技能]

- ・ 人間と文化について基礎的な知識や技能を身に付けている。

[思考力・判断力・表現力]

- ・ 課題に向けて自ら考え、表現する力を身に付けている。

[関心・意欲・態度]

- ・ 人々と協働して地域社会に貢献しようとする態度を身に付けている。

短期大学部

保育学科

総合文化学科

[知識・技能]

- ・ 保育及び関連する諸分野に関する基礎的な知識及び技能を身に付けている。

[思考力・判断力・表現力]

- ・ 学修した基礎知識や技能を用いて課題解決に向けた思考判断ができる。
- ・ 保育をめぐる諸課題を把握し、自らの考えを述べることができる。

[関心・意欲・態度]

- ・ 地域社会において保育者としての役割を果たすことができる人権感覚、倫理観及び職業観を身に付けている。

[知識・技能]

- ・ 島根、日本および世界の文化に関する基礎的な知識を身に付けている。

- ・ 情報化に対応したコンピュータの基礎的な技能を身に付けている。

- ・ 国際化に対応した言語の基礎的な運用能力を身に付けている。

[思考力・判断力・表現力]

- ・ 総合文化学科における幅広い学びの中から、主体的に課題を設定することができる。
- ・ 設定した課題について、自らが思考・判断・表現するために必要な、日本語の基礎的能力を身に付けている。

[関心・意欲・態度]

- ・ 身の回りの地域で生起している諸課題と主体的にかかわる態度を身に付けている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ホームページにて公表。

<http://www.u-shimane.ac.jp/university/policy/>

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：ホームページにて公表。<http://www.u-shimane.ac.jp/foundation/31check/>

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：ホームページにて公表。<http://www.u-shimane.ac.jp/foundation/31check/>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部名等：短期大学部	
教育研究上の目的（公表方法：「シラバス」に記載。）	
（概要）	
保育学科	総合文化学科
<p>島根県立大学短期大学部は、地域における教育研究の拠点として、学生の学ぶ意欲を高め、豊かな人間性を育むことによって、課題探求力及び実践力を兼ね備えた人材を育成するとともに、地域への知の還元や地域課題解決への支援を通じて地域と協働し、地域社会の文化及び福祉の向上に寄与することを目的とする。</p>	
<p>保育学を中心に、教育学、心理学、社会福祉、音楽、体育、美術、小児保健等の各分野を教育研究対象として、保育士及び幼稚園教諭の養成を行うとともに、現代の子育てを取り巻く社会及び家庭環境の変化等に伴う、より高度で多岐にわたる専門性が求められていることを踏まえ、これら広範囲にわたる分野について総体的に保育学幼児教育学に関する研究に取り組むこと。</p>	<p>島根、日本および世界の文化に関する基礎的な知識と技能を身につけ、グローバルな視点から地域社会と主体的に関わることができる人材を養成するとともに、人類学、言語学、文学、情報学等の各分野において、文化および文化資源に関する教育研究に学際的かつ多面的に取り組むこと。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにて公表。 http://matsuec.u-shimane.ac.jp/department/tandaibu/3policy/)	
（概要）	
保育学科	総合文化学科
<p>[知識・技能] ・ 人間と文化について基礎的な知識や技能を身に付けている。</p> <p>[思考力・判断力・表現力] ・ 課題に向けて自ら考え、表現する力を身に付けている。</p> <p>[関心・意欲・態度] ・ 人々と協働して地域社会に貢献しようとする態度を身に付けている。</p>	
<p>[知識・技能] ・ 保育及び関連する諸分野に関する基礎的な知識及び技能を身に付けている。</p> <p>[思考力・判断力・表現力] ・ 学修した基礎知識や技能を用いて課題解決に向けた思考判断ができる。 ・ 保育をめぐる諸課題を把握し、自らの考えを述べるができる。</p> <p>[関心・意欲・態度] ・ 地域社会において保育者としての役割を果たす</p>	<p>[知識・技能] ・ 島根、日本および世界の文化に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・ 情報化に対応したコンピュータの基礎的な技能を身に付けている。 ・ 国際化に対応した言語の基礎的な運用能力を身に付けている。</p> <p>[思考力・判断力・表現力] ・ 総合文化学科における幅広い学びの中から、主体的に課題を設定することができる。 ・ 設定した課題について、自らが思考・判断・表現するために必要な、日本語の基礎的能力を身に付けている。</p> <p>[関心・意欲・態度]</p>

<p>ことができる人権感覚、倫理観及び職業観を身に付けている。</p>	<p>・身の回りの地域で生起している諸課題と主体的にかかわる態度を身に付けている。</p>
-------------------------------------	---

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにて公表。
<http://matsuec.u-shimane.ac.jp/department/tandaibu/3policy/>)

(概要)

保育学科	総合文化学科
<p>短期大学部では、2年間の体系的な教育課程を編成するため、科目の大きな区分として[基礎科目][専門科目]の科目区分を設け、以下のとおりカリキュラムポリシーを定める。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・人間と文化、社会、自然のそれぞれの関わりについて基礎的な知識を身に付けるため、[基礎科目]に[人間と世界の理解]の科目群を設ける。 ・島根における地域の特色や課題について理解を深め、地域共生の精神を育むため、[基礎科目]の[人間と世界の理解]科目群の中に[地域]科目群を設ける。 ・保育並びに文化に関する専門性を育成するため、[専門科目(保育学科)]/専門科目(総合文化学科)]により、両学科の教育課程に従って専門的な学びを深め、2年次に学びの集大成を図る。 ・地域における保育や文化に関心を持ち、地域で活躍できる実践力を育成するため、[基礎科目][専門科目(保育学科)]/専門科目(総合文化学科)]の全体を通して、実習、演習、フィールドワークなど体験型の学修機会を積極的に設ける。 	
<p>1 地域における人間の生き方や文化の様態について価値を見出す能力の育成を目指して、「しまね地域共生学入門」「しまねボランティア研修」を含む、[基礎科目]を編成する。</p> <p>2 子どもの発達や保育課題についての実践的専門性の育成を行うために、保育及び関連する諸分野に関する[専門科目]を編成する。</p> <p>3 集団での協同的实践力の育成を行うことを目的として、グループによるアクティブラーニングと実習体験活動の科目を配置する。</p>	<p>1 コンピュータの基礎的な技能の養成を目指して、[基礎科目]に[情報リテラシー]科目群を配置する。</p> <p>2 主体的に課題を設定し、自ら思考・判断・表現するために必要な日本語の基礎的能力の養成を目的として、[専門科目]に[総合文化プロジェクト]科目群を配置する。</p> <p>3 島根、日本および世界の文化に関する基礎的な知識の習得を目的として、[専門科目]に[日本と世界の文化][言語と文化][文化資源の活用]の科目群を配置する。</p> <p>4 国際化に対応した言語の基礎的な運用能力の養成を目指して、[専門科目]に[言語と文化]科目群を配置する。</p> <p>5 身の回りの地域で生起している諸課題と主体的にかかわる態度の育成を目的として、[専門科目]に[文化資源の活用][総合文化研修]の科目群を配置する。</p>

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページにて公表。

<http://matsuec.u-shimane.ac.jp/department/tandaibu/3policy/>)

(概要)

保育学科	総合文化学科
<p>[知識・技能] ・ 高等学校における基本的な教科を理解し、短期大学で学んでいく上で必要な基礎的学力を有している人</p> <p>[思考力・判断力・表現力] ・ 基礎的コミュニケーション能力を持ち、自分の考えを的確に表現できる人</p> <p>[関心・意欲・態度] ・ 多様な視点から学び、その成果を地域のために役立てる意欲のある人</p>	
<p>[知識・技能] ・ 短期大学で学んでいく上で必要な基礎的な学力を有している人</p> <p>[思考力・判断力・表現力] ・ 課題の内容を理解し、自分の考えを的確に言葉や文章によって伝えることができる人</p> <p>[関心・意欲・態度] ・ 保育者として、他者と協調しながら社会に貢献していこうとする強い意欲を有している人</p>	<p>[知識・技能] ・ 他者とコミュニケーションするために必要とされる国語と英語の基礎的な技能を有している人</p> <p>[思考力・判断力・表現力] ・ 短期大学で主体的に考えを進めていくために必要な思考力・判断力・表現力を有している人</p> <p>[関心・意欲・態度] ・ 日本と海外諸地域における文化と社会に関する様々な事象に対して興味・関心を有している人 ・ 地域が抱える社会的・文化的諸課題を共感をもって理解し、その解決に向けて地域の多様な人びとと協働する意欲と態度を有している人</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページにて公表。URL：<http://www.u-shimane.ac.jp/announce/tanki/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
短期大学部 保育学科	—	4人	0人	3人	0人	0人	7人
短期大学部 総合文化学科	—	2人	2人	2人	0人	0人	6人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員			計	
0人			13人			13人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：ホームページにて公表。 http://www.u-shimane.ac.jp/announce/tanki/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
短期大学部 保育学科	40人	41人	102.5%	90人	84人	93.3%	—	—
短期大学部 総合文化学科	40人	44人	110.0%	180人	87人	48.3%	—	—
合計	80人	85人	106.3%	270人	171人	63.3%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
短期大学部 保育学科	41人 (100%)	5人 (12.2%)	36人 (87.8%)	0人 (0%)
短期大学部 総合文化学科	47人 (100%)	4人 (8.5%)	37人 (78.7%)	6人 (12.8%)
合計	88人 (100%)	9人 (10.2%)	73人 (83.0%)	6人 (6.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバス作成の手引きを作成し、各項目における表記のポイント及び記載例を具体的に例示している。併せて作成スケジュールも明記し、公開までの進行管理を行っている。次年度のシラバス公開は凡そ前年度末の3月下旬を予定している。作成されたシラバスは広く公開することとし、学外者であってもホームページにおいてPDFの閲覧やシステムによる検索が可能である。（再掲）</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p><学修の成果に係る評価について></p> <p>授業科目毎に作成されたシラバスに明記されている評価方法（出席点〇%、レポート〇%、小テスト〇%、期末テスト〇%、授業態度〇%等、授業科目によって異なる。）により、100点満点で採点を行い、結果を下記のとおり評価する。</p> <p>90～100 秀 80～89 優 70～79 良 60～69 可 0～59 不可</p> <p>このうち、「可」以上の成績を修めたものを合格とし、単位を与える。</p> <p><卒業又は修了の認定に当たっての基準について></p> <p style="text-align: center;">島根県立大学短期大学部</p> <p>[知識・技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間と文化について基礎的な知識や技能を身に付けている。 <p>[思考力・判断力・表現力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題に向けて自ら考え、表現する力を身に付けている。 <p>[関心・意欲・態度]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人々と協働して地域社会に貢献しようとする態度を身に付けている。

短期大学部				
保育学科		総合文化学科		
<p>[知識・技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育及び関連する諸分野に関する基礎的な知識及び技能を身に付けている。 <p>[思考力・判断力・表現力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学修した基礎知識や技能を用いて課題解決に向けた思考判断ができる。 ・ 保育をめぐる諸課題を把握し、自らの考えを述べることができる。 <p>[関心・意欲・態度]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域社会において保育者としての役割を果たすことができる人権感覚、倫理観及び職業観を身に付けている。 		<p>[知識・技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 島根、日本および世界の文化に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・ 情報化に対応したコンピュータの基礎的な技能を身に付けている。 ・ 国際化に対応した言語の基礎的な運用能力を身に付けている。 <p>[思考力・判断力・表現力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合文化学科における幅広い学びの中から、主体的に課題を設定することができる。 ・ 設定した課題について、自らが思考・判断・表現するために必要な、日本語の基礎的な能力を身に付けている。 <p>[関心・意欲・態度]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りの地域で生起している諸課題と主体的にかかわる態度を身に付けている。 		
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
短期大学部	保育学科	62 単位	①・無	なし
	総合文化学科	62 単位	①・無	なし
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページにて公表。

松江キャンパス：<http://matsuec.u-shimane.ac.jp/campus/map/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載 事項)
短期大学部	保育学科	390,000 円	県内生 112,800 円 県外生 169,200 円	28,000 円	実習等経費
	総合文化学科		県内生 112,800 円 県外生 169,200 円		

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学業や学校生活全般に関する質問や相談、あるいは個人的な指導等を受けるための時間(オフィスアワー)を全専任教員が設定している。また、教員に対し気軽に何でも相談できる相談会を実施したり、履修登録相談を行ったりしている。また、T・A・S・A制度等を設け、教員の教育研究業務の補助を行うことで手当の支給を受けるだけでなく、自分自身の能力向上を図ることができる機会を用意している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア支援を担当する部署を設置し、学生がいつでも相談できる環境を整えている。また、ゼミ教員と保護者、また学生本人も含めた二者ないし三者面談を実施し、1年次から進路を見据えた教育・学修が行われるよう取り組んでいる。各種資格試験への助成制度もあり、社会で必要とされるスキルの修得を支援している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 毎年1回の健康診断に加え、医務室を設置し、常駐の看護師や保健師が健康面での悩みや相談を受け付けている。また、精神科医の校医による精神保健相談や臨床心理士の資格を持つ本学教員、認定心理カウンセラーが常駐する学生サポート室等、相談内容によって適切な職員が窓口となって対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページにて公表。 http://www.u-shimane.ac.jp/announce/tanki/
--

◆実務経験のある教員による授業科目一覧（総合政策学科）

	学部	学科	科目群	科目名	専任/非常勤	担当教員	単位数	授業科目との関連性
1	総合政策	総合政策	専門科目	地域産業政策論	専任	久保田 典男	2	政策金融機関で中小企業者に対する融資等の業務経験あり
2	総合政策	総合政策	専門科目	中小企業論	専任	久保田 典男	2	
3	総合政策	総合政策	専門科目	ベンチャービジネス論	専任	久保田 典男	2	
4	総合政策	総合政策	専門科目	経営科学	専任	村山 誠	2	航空会社関連企業にて、 ①情報システムの企画（業務分析・業務の再構築）から運用までの実務経験あり ②組織管理職としての組織運営（中期計画策定・実行・評価など）に関する実務経験あり ③グループ企業全体の情報セキュリティ管理（企画・自社分析・他社分析・調査・中期計画策定）に関する実務経験あり
5	総合政策	総合政策	専門科目	経営戦略論	専任	村山 誠	2	
6	総合政策	総合政策	専門科目	経営組織論	専任	村山 誠	2	
7	総合政策	総合政策	専門科目	現代企業論	専任	村山 誠	2	
8	総合政策	総合政策	専門科目	地方自治論	専任	光延 忠彦	2	報道機関及び国会議員秘書として実務経験あり
9	総合政策	総合政策	基盤科目	行政学	専任	光延 忠彦	2	
10	総合政策	総合政策	基盤科目	行政学入門	専任	光延 忠彦	2	
総合政策学科合計単位数							20	

◆実務経験のある教員による授業科目一覧（看護学科）

	学部	学科	科目群	科目名	専任/非常勤	担当教員	単位数	授業科目との関連性
1	看護栄養	看護	基礎看護	看護学概論	専任	○吉川 洋子 岡安 誠子	2	医療機関での臨床経験あり（看護師）
2	看護栄養	看護	基礎看護	コミュニケーション論	専任	岡安 誠子	1	医療機関での臨床経験あり（看護師）
3	看護栄養	看護	基礎看護	ヘルスアセスメント	専任	○岡安 誠子 平井 由佳 川瀬 淑子 高橋 梢子 梶谷 麻由子 横山 敦美	1	医療機関での臨床経験あり（看護師）
4	看護栄養	看護	基礎看護	生活援助方法論Ⅰ	専任	○平井 由佳 川瀬 淑子 高橋 梢子 梶谷 麻由子	1	医療機関での臨床経験あり（看護師）
5	看護栄養	看護	基礎看護	生活援助方法論Ⅱ	専任	○川瀬 淑子 平井 由佳 高橋 梢子 梶谷 麻由子	2	医療機関での臨床経験あり（看護師）
6	看護栄養	看護	基礎看護	基礎看護学実習Ⅰ（家庭）	専任	吉川 洋子 岡安 誠子 ○平井 由佳 川瀬 淑子 高橋 梢子 梶谷 麻由子	1	医療機関での臨床経験あり（看護師）
7	看護栄養	看護	基礎看護	基礎看護学実習Ⅱ（病院）	専任	吉川 洋子 岡安 誠子 平井 由佳 ○川瀬 淑子 高橋 梢子 梶谷 麻由子	2	医療機関での臨床経験あり（看護師）
8	看護栄養	看護	臨床看護	発達健康看護論Ⅰ（成人）	専任	○森山 美香 大谷 美樹 佐藤 美紀子	2	医療機関での臨床経験あり（看護師）
9	看護栄養	看護	臨床看護	成人臨床看護論Ⅰ（慢性・終末期）	専任	○佐藤 美紀子 大谷 美樹 松本 祐香	2	医療機関での臨床経験あり（看護師）
10	看護栄養	看護	臨床看護	発達健康看護論Ⅱ（老年）	専任	梶谷 みゆき	1	医療機関での臨床経験あり（看護師）

11	看護栄養	看護	臨床看護	老年臨床看護論	専任	梶谷 みゆき ○松本 玄智江 林 健司 加藤 さゆり 荒木 さおり 山本 真理子 内田 芙美佳	2	医療機関での臨床経験あり（看護師）
12	看護栄養	看護	臨床看護	発達健康看護論Ⅲ（小児）	専任	高橋 恵美子	1	医療機関での臨床経験あり（看護師）
13	看護栄養	看護	臨床看護	小児臨床看護論	専任	○高橋 恵美子 小田 香澄 佐藤 基	2	医療機関での臨床経験あり（看護師）
看護学科合計単位数							20	

◆実務経験のある教員による授業科目一覧（健康栄養学科）

	学部	学科	科目群	科目名	専任/非常勤	担当教員	単位数	授業科目との関連性
1	看護栄養	健康栄養	専門基礎科目	調理学実習Ⅰ（基礎）	専任	荒井 恵美子	1	医療機関での臨床経験あり（管理栄養士）
2	看護栄養	健康栄養	専門基礎科目	調理学実習Ⅱ（応用）	専任	荒井 恵美子	1	医療機関での臨床経験あり（管理栄養士）
3	看護栄養	健康栄養	専門基礎科目	食事設計論	専任	荒井 恵美子	1	医療機関での臨床経験あり（管理栄養士）
4	看護栄養	健康栄養	専門科目	基礎栄養学	専任	原田 永勝	2	医療機関での臨床経験あり（管理栄養士）
5	看護栄養	健康栄養	専門科目	基礎栄養学実験	専任	原田 永勝	1	医療機関での臨床経験あり（管理栄養士）
6	看護栄養	健康栄養	専門科目	栄養管理学	専任	細川 優	2	医療機関での臨床経験あり（管理栄養士）
7	看護栄養	健康栄養	専門科目	応用栄養学Ⅰ（母子・成長期）	専任	原田 永勝	2	医療機関での臨床経験あり（管理栄養士）
8	看護栄養	健康栄養	専門科目	栄養教育論Ⅰ（総論）	専任	今中 美栄	2	医療機関での臨床経験あり（管理栄養士）
9	看護栄養	健康栄養	専門科目	栄養教育論Ⅱ（各論）	専任	今中 美栄	2	医療機関での臨床経験あり（管理栄養士）
10	看護栄養	健康栄養	専門科目	臨床栄養学Ⅰ（総論）	専任	名和田 清子	2	医療機関での臨床経験あり（管理栄養士）
11	看護栄養	健康栄養	専門科目	公衆栄養学Ⅰ（総論）	専任	中畑 典子	2	企業等での実務経験あり（管理栄養士）
12	看護栄養	健康栄養	専門科目	給食経営管理論Ⅰ（総論）	専任	亀山 良子	2	医療機関での臨床経験あり（管理栄養士）
健康栄養学科合計単位数							20	

◆実務経験のある教員による授業科目一覧（保育教育学科）

	学部	学科	科目群	科目名	専任/非常勤	担当教員	単位数	授業科目との関連性
1	人間文化	保育教育	学科基礎	表現とコミュニケーション	非常勤	園山 土筆	1	教育機関において勤務経験あり（保育士）
2	人間文化	保育教育	専門基幹	特別支援教育とインクルーシブ教育論	専任	園山 繁樹	1	教育機関において勤務経験あり（小学校教諭）
3	人間文化	保育教育	専門基幹	子ども家庭福祉	専任	藤原 映久	2	児童相談所において勤務経験あり
4	人間文化	保育教育	専門基幹	社会的養護Ⅰ	専任	藤原 映久	2	児童相談所において勤務経験あり
5	人間文化	保育教育	専門基幹	初等体育科教育法	専任	梶谷 朱美	2	教育機関において勤務経験あり（小学校教諭）
6	人間文化	保育教育	専門基幹	子育て支援	非常勤	山尾 淳子	1	教育機関において勤務経験あり（幼稚園教諭）
7	人間文化	保育教育	専門基幹	子どもの保健	専任	前林 英貴	2	医療機関において臨床経験あり
8	人間文化	保育教育	専門基幹	乳児保育Ⅱ	非常勤	青山 啓子	1	教育機関において勤務経験あり（保育士）
9	人間文化	保育教育	専門基幹	障害児保育	専任	園山 繁樹	2	教育機関において勤務経験あり（小学校教諭）
保育教育学科合計単位数							14	

◆実務経験のある教員による授業科目一覧（地域文化学科）

	学部	学科	科目群	科目名	専任/非常勤	担当教員	単位数	授業科目との関連性
1	人間文化	地域文化	学科基礎	総合英語Ⅳ（英会話）ラング	専任	ラング クリス	1	教育機関において勤務経験あり（高等学校教諭、英語塾講師）
2	人間文化	地域文化	専門基幹	地域文化論Ⅰ（小泉八雲）	非常勤	小泉 凡	2	文化施設の管理運営に関する勤務経験あり
3	人間文化	地域文化	専門基幹	読み聞かせの実践	非常勤	岩田 裕子	2	教育機関において勤務経験あり（小学校教諭）
4	人間文化	地域文化	専門基幹	観光フィールドトリップ	専任	ダスティン キッド	2	教育機関において勤務経験あり（高等学校教諭）
5	人間文化	地域文化	専門科目	日本文化論Ⅲ（妖怪文化）	非常勤	小泉 凡	2	文化施設の管理運営に関する勤務経験あり
6	人間文化	地域文化	資格・免許科目	国語科教育法Ⅱ	非常勤	寺本 学	2	教育機関において勤務経験あり（中学校教諭）
7	人間文化	地域文化	資格・免許科目	国語科教育法Ⅲ	非常勤	寺本 学	2	教育機関において勤務経験あり（中学校教諭）
地域文化学科合計単位数							13	

◆実務経験のある教員による授業科目一覧（短期大学部保育学科）

	学部	学科	科目群	科目名	専任/非常勤	担当教員	単位数	授業科目との関連性
1	短期大学	保育	専門科目	表現とコミュニケーション	非常勤	園山 土筆	1	教育機関において勤務経験あり（保育士）
2	短期大学	保育	専門科目	保育内容演習Ⅰ	専任	梶谷 朱美	1	教育機関において勤務経験あり（小学校教諭）
3	短期大学	保育	専門科目	特別支援教育	専任	西村 健一	1	教育機関において勤務経験あり（養護学校教諭）
4	短期大学	保育	専門科目	子どもの保健	専任	前林 英貴	2	医療機関において臨床経験あり
5	短期大学	保育	専門科目	幼児と健康	専任	梶谷 朱美	1	教育機関において勤務経験あり（小学校教諭）
6	短期大学	保育	専門科目	乳児保育Ⅱ	非常勤	青山 啓子	1	教育機関において勤務経験あり（保育士）
7	短期大学	保育	専門科目	障害児保育Ⅰ	非常勤	山本 勉	1	教育機関において勤務経験あり（幼稚園・小学校教諭）
8	短期大学	保育	専門科目	社会的養護Ⅱ	専任	藤原 映久	1	児童相談所において勤務経験あり
9	短期大学	保育	専門科目	子育て支援	非常勤	山尾 淳子	1	教育機関において勤務経験あり（幼稚園教諭）
短期大学部保育学科合計単位数							10	

◆実務経験のある教員による授業科目一覧（短期大学部総合文化学科）

	学部	学科	科目群	科目名	専任/非常勤	担当教員	単位数	授業科目との関連性
1	短期大学	総合文化	専門科目	文化情報誌制作	非常勤	山根 繁樹	2	教育機関において勤務経験あり（高等学校教諭）
2	短期大学	総合文化	専門科目	文学と文化Ⅱ	非常勤	山根 繁樹	2	教育機関において勤務経験あり（高等学校教諭）
3	短期大学	総合文化	専門科目	英米の社会と文化	専任	ダスティン キッド	2	教育機関において勤務経験あり（高等学校教諭）
4	短期大学	総合文化	専門科目	日本文化特論（妖怪学）	非常勤	小泉 凡	2	文化施設の管理運営に関する勤務経験あり
短期大学部総合文化学科合計単位数							8	